

流域治水を実現するための下水道事業

- 気候変動による水害リスクの増大に備えるため、下水道・河川管理者に加え、あらゆる関係者により流域全体で行う治水（流域治水）への取組を推進。
- 流域治水の考え方も踏まえ、**ハード・ソフトの両面から浸水対策に取り組み**、安全で安心なまちづくりを実現。

流域治水対策



「流域治水」のイメージ

■新たな水災害対策の具体策(下水道関連の主要施策) 気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について 答申（令和2年7月）

1. 計画・基準類の見直し
・気候変動による降雨量の増加を考慮した計画雨水量へ見直し
2. 「流域治水」への転換
 - ①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
・河川事業との連携及び地下空間を活用した大規模な雨水貯留施設等の整備、個人・民間の雨水貯留浸透施設の活用や整備
・耐水化に係る技術的な基準を設定し、計画的に対策を推進
 - ②被害対象を減少させるための対策
・重点的に整備を行う必要があると位置づけられた地区等における施設の新規整備や老朽化施設の適切な機能確保、樋門等の操作性の向上等による効果的な浸水被害の軽減
 - ③被害の軽減・早期復旧・復興のための対策
・想定最大規模の内水浸水想定区域の早期指定及び指定対象外の下水道に係るハザード情報の公表
・多段的な浸水ハザード情報の作成・周知
・BCPの策定の推進
・関係者が連携し、既存の排水施設を活用した氾濫水の排水により浸水の早期解消を推進

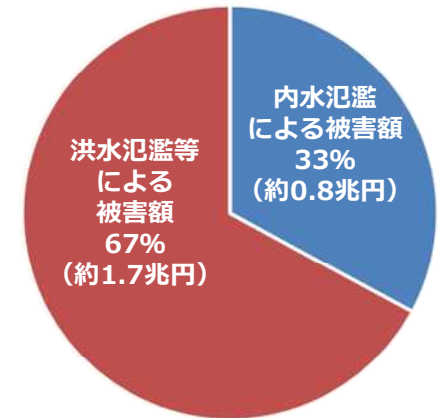
内水被害状況及び浸水対策

近年の内水被害状況等

- 局地的な大雨の発生頻度の増加や、都市化の進展に伴う雨水の流出量の増加に伴い、都市型の浸水被害（内水氾濫）のリスクが高まっている。



全国の浸水被害の発生状況



【出典：水害統計より集計】
(平成21～30年の10年間の合計)

下水道による総合的な浸水対策

効果的なハード対策

- 雨水貯留浸透施設の積極的導入
- ポンプ施設の耐水化 など



ソフト対策の強化

- 内水ハザードマップの公表
- 水位情報等のリアルタイム情報提供の促進

自助の促進

- 浸水時の土のう設置
- 自主避難 など

個別補助事業

- 近年、全国の都市において内水被害が頻発しており、市民生活、経済活動への甚大な影響が発生している。
- このため、**下水道による大規模な再度災害防止対策や河川事業と連携した内水対策について、計画的・集中的に支援するための補助事業制度を令和元年度より創設。**
- さらに、**一定期間に集中的な投資が必要となる大規模な雨水処理施設について、計画的な整備や適切な機能確保を図るため、集中的に支援する補助事業制度を令和2年度より創設。**

令和元年度より創設

下水道床上浸水対策事業

<大規模な再度災害防止対策>

○浸水被害のリスクが高い都市機能集積地区等における早急な再度災害防止を図るため、下水道整備による浸水対策を集中的に支援。

- ・概ね5年以内で完了する事業
- ・過去概ね10年以内に床上浸水50戸以上等の要件

事業間連携下水道事業

<河川事業と連携した内水対策>

○内水による深刻な影響を回避するため、河川事業と一体的かつ計画的に実施する下水道整備を集中的に支援。

- ・概ね5年以内で完了する事業
- ・想定される浸水家屋が25戸以上等の要件

令和2年度より創設

大規模雨水処理施設整備事業

<大規模な雨水処理施設の設置・改築>

○計画的な整備や適切な機能確保を図るため、大規模な雨水処理施設の設置又は改築を集中的に支援。

- ・概ね10年以内で完了する事業
- ・総事業費が5億円以上を要件

【対策イメージ】



雨水ポンプの整備



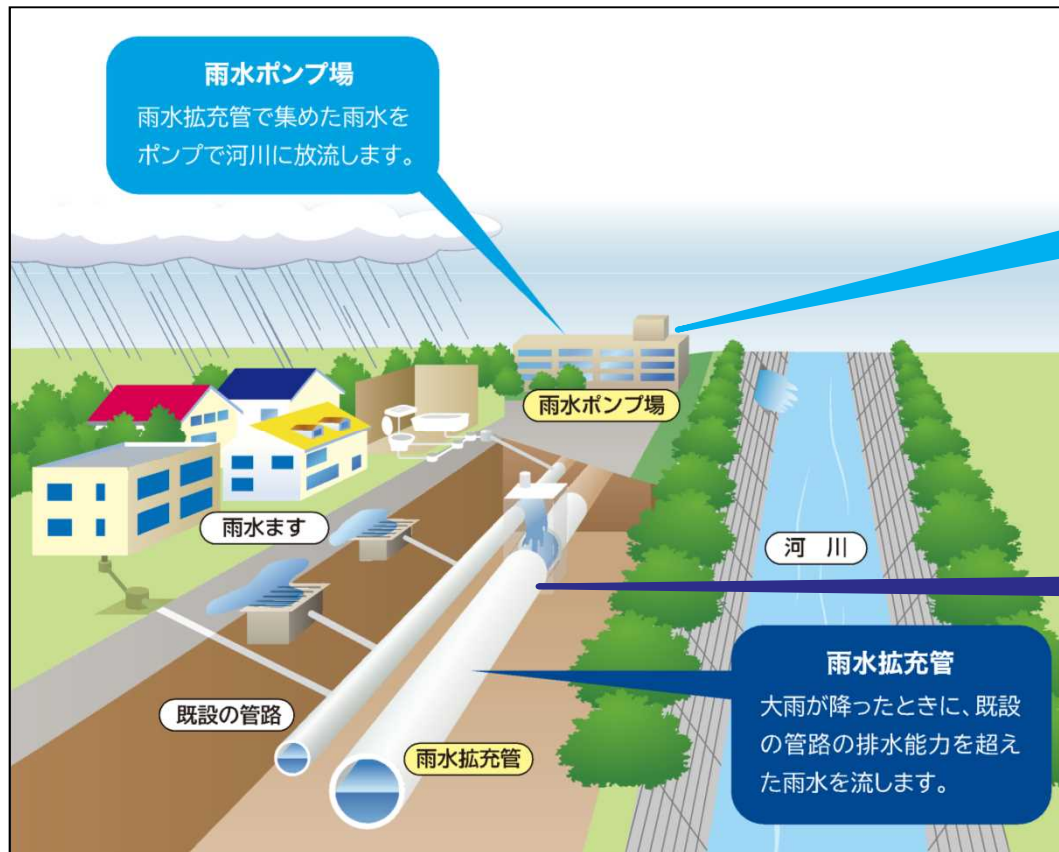
雨水貯留管の整備



貯留施設の整備

札幌市下水道の浸水対策事業の概要

- 札幌市では、昭和53年に、10年確率降雨（35mm/h）への対応を目標とした「アクアレインボー計画」を策定し、雨水ポンプ場や雨水拡充管の整備による下水道施設の増強を進めている。
- これまでに、雨水ポンプ場の整備はすべて完了し、雨水拡充管についても約7割近くの整備が完了しており、令和2年度末時点で、整備が完了した市内の面積割合は約9割に達している。



【雨水ポンプ場・雨水拡充管のイメージ】

平岸地区大規模雨水処理施設整備事業

平岸地区の概要

- 平岸地区は、地下鉄平岸駅や国道453号等の主要幹線道路を有した交通機能が集積しているとともに、災害時基幹病院であるKKR札幌医療センターや避難所等が存在する地区である。
- 平成26年に時間最大44mm/hの大雨で浸水被害が発生したほか、その後も度々浸水被害が発生しており、早急な浸水対策が求められている。



事業概要

- 個別補助制度「大規模雨水処理施設整備事業」等を活用して、当該地区の雨水拡充管の整備を行い、浸水被害の軽減を図る。

■ 事業期間

令和元年度～令和5年度

■ 事業内容

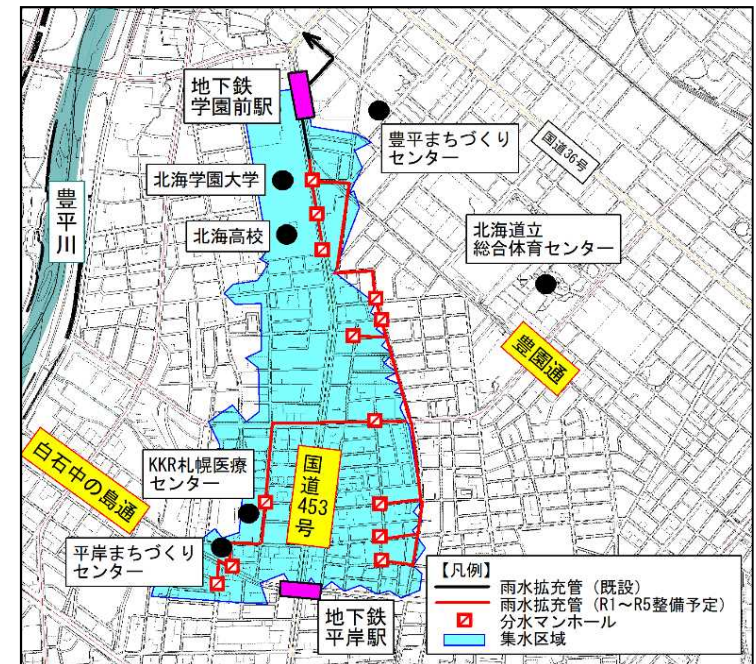
雨水拡充管の整備

管径：300～1,500mm

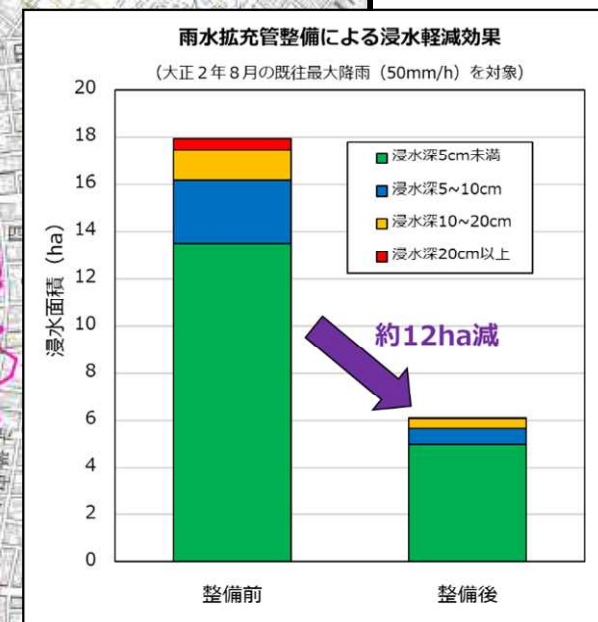
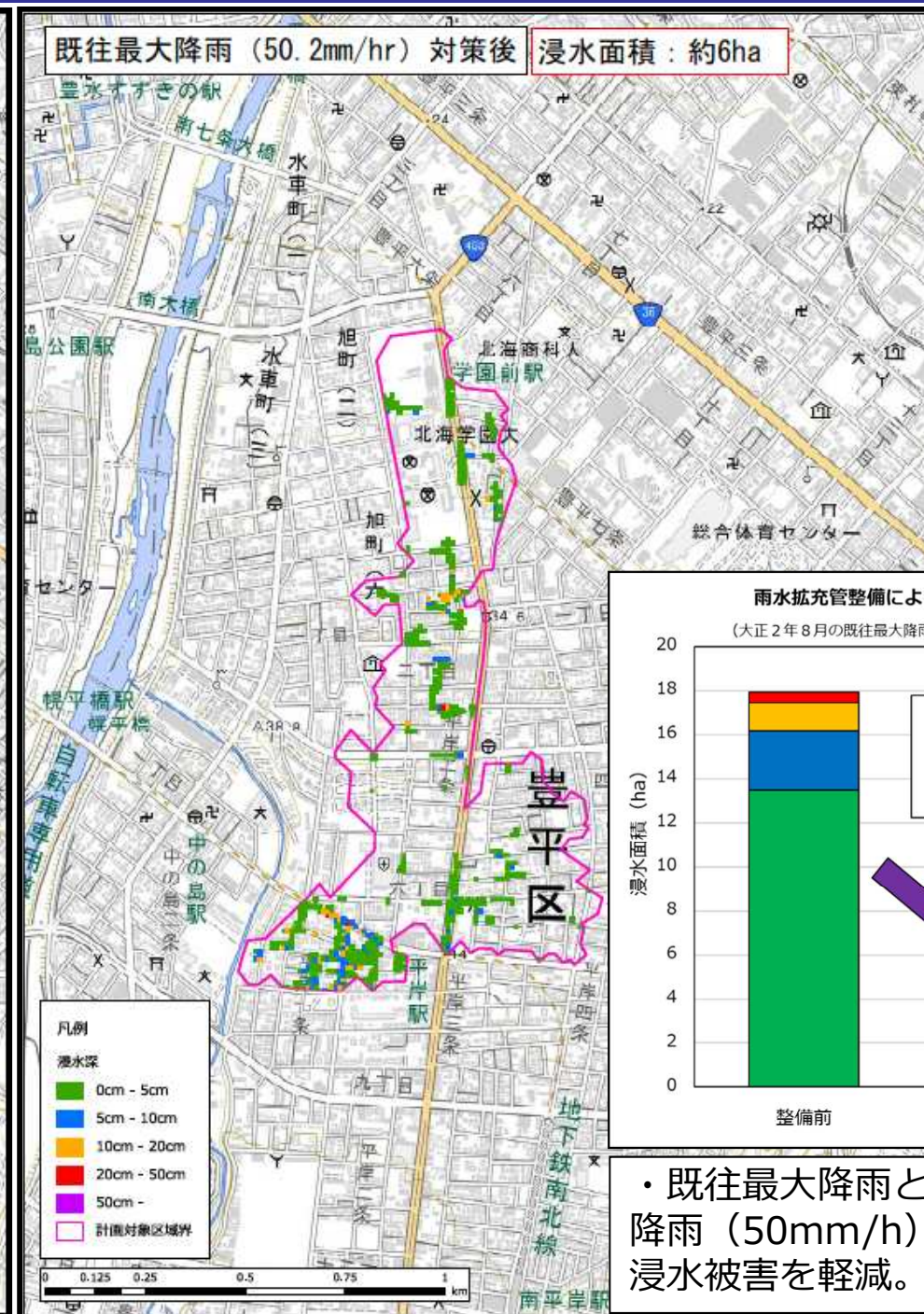
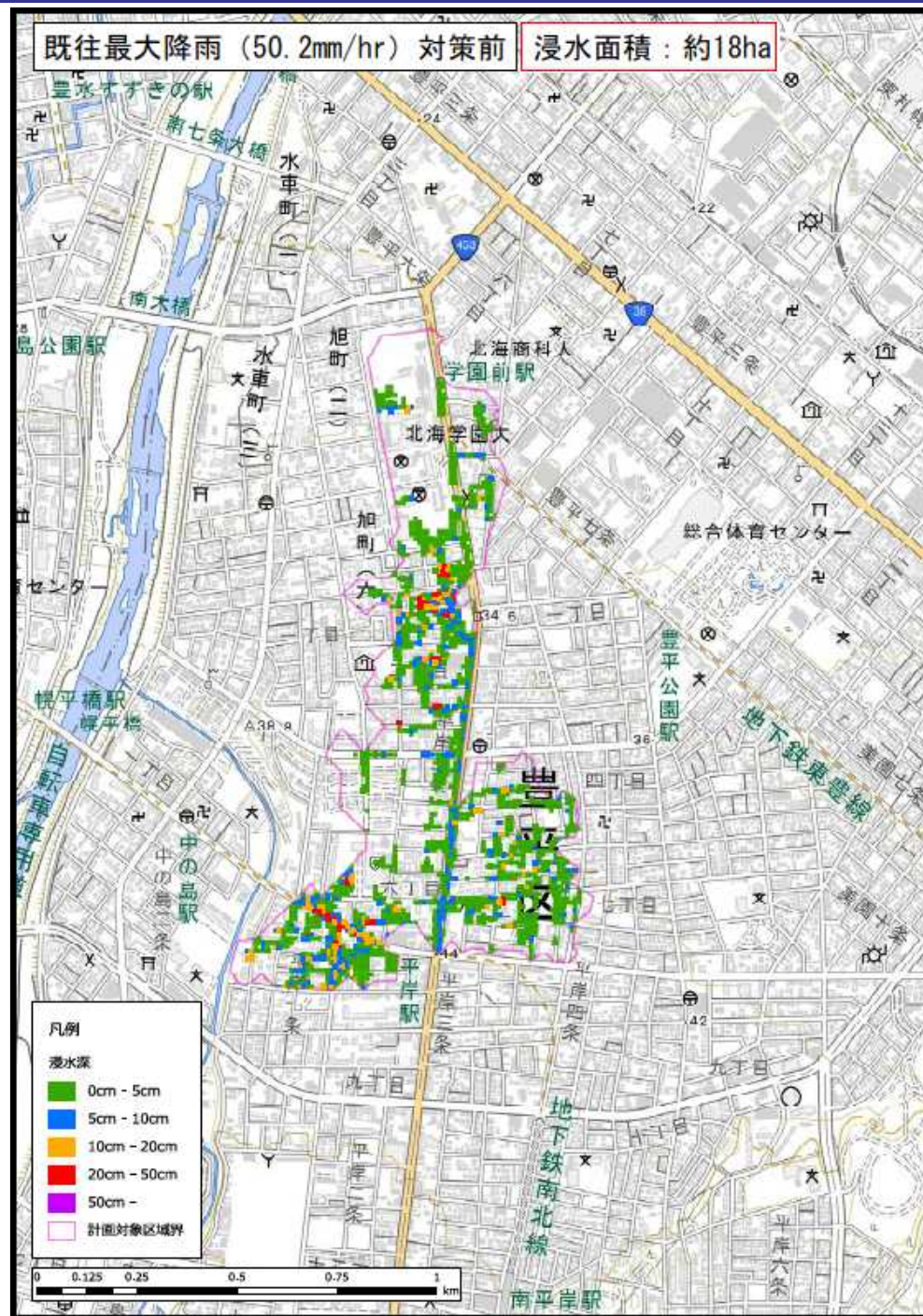
延長：約3.2km

■ 事業費

約34億円



事業効果



・既往最大降雨と同規模の降雨 (50mm/h) に対して、浸水被害を軽減。